

一

木の芽田楽き めでんがく

温湯を大盤うんたう おおはんぎり

に湛へ、切るも串たく ぐしにさすも其

湯の中にてする也、やはらかなる豆腐にても危あやうくおつるなど

のうれへなし、湯よりひきあげすぐに火にかくる也、○味曾みそ

に木の目勿論もちろんなり、醴あまさけのかた入れを二分どほりミそに

すりまぜれば尤佳よし也、多く入れバ甘すぎて却かへつてよろしからず、